

第2回文化芸術部会議事概要

開催日時：令和8年8月24日（月）18：30～20：00

開催場所：名寄市役所 名寄庁舎4階第1委員会室

出席者：堺 卓也、堀川 真、石本 義行、草薙 進一、黒川 みどり、石田 十羽完、
内田 明美、菅 歩、高橋 祐美

1 開 会

2 議 事

事務局：議事（1）「文化芸術活動団体調査について」、（2）「（仮称）N-COLLEの実施内容について」の説明。

L委員：本日は、調査結果等を踏まえ、実施内容についてご意見をいただきたい。

B委員：部活動がある文化芸術活動の受け皿となる活動がないと感じる。

事務局：今回は、主に文化関係の団体を対象に調査を行った。（仮称）N-COLLEの大枠ができれば、個別に団体に対してアプローチすることも可能だと考えている。

L委員：団体は平日に活動している団体が多い。それ以外の団体を対象から外した場合、協力できる団体が絞られることが考えられる。

事務局：既存の活動に生徒等が参加するスタイルではなく、既存の活動以外に生徒等を集めて、講師が教えに向かうスタイルも考えられる。初めから実施スタイルを決めることで対象となる団体が少なくなる可能性がある。時間帯についても同様である。

事務局：今回の調査結果では、受け入れ可能な人数が10名程度であるという回答が多かったことから、多くの生徒等が参加できるようにするには、同日に複数のプログラムを設定しなければならない。ただ、協力いただける団体が少なければ、同じような活動ばかりになる可能性がある。また、一団体ごとの負担も大きくなる。

M委員：夜7時からの活動は中学生にとって遅いと感じる。（仮称）N-COLLEの協力を肯定的な団体が小学生から受け入れ可能であると回答があったことから、受け入れが可能な団体は中学生にとられる必要はないのではないか。

I委員：団体側のことを考えれば、夜の時間の方が協力しやすいため、活動の幅が広がるのではないか。学校開放事業を利用している団体は、大体7時頃から活動しており、保護者が送迎を行っている。

M委員：既存団体が活動する時間には、その時間になった理由があると考え。団体側の都合に合わせて（仮称）N-COLLEを開始し、実施していく中で団体の方が子どもたちのために回数を増やすなど、前向きに変化していくことができると考える。初めから活動や活動スタイルを押し付けることで継続した活動ができない可能性もある。

C委員：調査結果から（仮称）N-COLLEに肯定的な団体が結構あると感じており、名寄市の素晴らしいところだと考えている。団体側に寄り添った活動にすることで安定的な活動ができるのではないかと考える。

Q委員：現在サークルで活動しており、夜間に活動している。既存の活動に参加してもらうスタイルではなく、講師が教えに向かうスタイルであれば、協力できる範囲が広がるかもしれない。活動内容によっては、目が届かない可能性もあるため、安全管理の面で小学生の受け入れは難しい。

事務局：対象を中学生に限定することで、参加者が少ない場合に影響はあるか。

Q委員：少人数でも受け入れは可能である。

O委員：所属している団体では、講師が多くいるため、時間や場所を提示していただいて調整する方が協力しやすいと考える。

P委員：営利目的にあたる団体は（仮称）N-COLLEの対象団体として難しいと考える。

L委員：（仮称）N-COLLEで使用するものは団体負担で用意するのか。指導者報酬や入会費等も検討する必要がある。

事務局：持続可能な活動にするためには、団体負担では難しい。受益者負担とのバランスを検討しなければならないと考える。

B委員：団体は通年で協力しなくてはいけないと感じている可能性がある。

M委員：各団体の既存の活動をそのままカレンダーにして、生徒がその中から活動を選択するものではないのか。

事務局：各団体の既存の活動がそのまま（仮称）N-COLLEになるわけではない。（仮称）N-COLLEは文化芸術活動の入り口となるよう様々な活動を体験できる体験会を集めたカレンダーのようなプログラムをイメージしている。（仮称）N-COLLEとして設定した頻度や回数の中で団体の活動をローテーションし、その中から生徒が活動を選択することを考えている。（仮称）N-COLLEとしての活動ス

タイトルや時間帯は制限せず、団体に合わせて柔軟に対応したい。

P委員：(仮称) N-COLLEに参加している中で、興味のある団体に加入することはできるのか。

事務局：団体に加入するのは、自由である。様々な体験をすることが魅力なのか、一つの活動に集中することが魅力なのか、一人ひとりニーズが異なることから、(仮称) N-COLLEについて検討してきている。

B委員：(仮称) N-COLLEに魅力がないと、数回で参加しなくなることも想定される。既存団体以外にもアプローチをして、活動の幅を持たせる必要があると考える。サークルだけでなく、働くことや知ることなどの要素を取り入れた活動もできるのではないかと。

事務局：既存団体の活動以外にも選択肢を考えられることも(仮称) N-COLLEの魅力だと考えている。団体に所属していなくても、何かを教えることができる方は潜在的に存在すると考える。

L委員：講師として教えることのできる要件や研修制度など検討する必要があるのではないかと。

事務局：事前の登録や誓約書の提出、安全管理にかかる研修の受講などが考えられる。

M委員：初めから内容を固めて(仮称) N-COLLEを開始するのは難しい。(仮称) N-COLLEを検証しながら、柔軟な対応が必要だと感じている。

L委員：N-COLLEを正式な名称として決定する。N-COLLEの内容については、本日の意見を踏まえ、まずは案を作成する。

3 その他

4 閉 会